

事業所における自己評価結果

事業所名	わくわくハウス 桶川西校
------	--------------

実施年月日 ： 2025年12月3日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用人数に応じて活動スペースを調整し、安全かつ落ち着いて過ごせる環境づくりに努めています。	時間帯や活動内容によっては手狭に感じる場面もあり、さらなる空間活用の工夫が必要です。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		児童の特性や人数に応じて柔軟に職員配置を行い、個別支援と安全確保の両立を図っています。	利用状況により支援負担が増す場面もあり、安定した人員体制の強化が求められます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		視覚的に分かりやすい配置や表示を取り入れ、障害特性に応じた安心できる環境整備を行っています。	個々の特性により更なる配慮が必要な場合もあり、継続的な見直しが必要です。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清潔で快適な空間を維持し、活動内容に応じた環境設定により過ごしやすさを大切にしています。	活動の多様化に伴い、より柔軟な空間づくりへの工夫が求められます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		必要に応じて個別対応ができるスペースを確保し、安心して落ち着ける環境を整えています。	利用状況によっては十分に確保できない場合もあり、さらなる工夫が必要です。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		日々のミーティングや振り返りを通じて職員全体で課題共有し、改善に向けた意見交換を行っています。	参画の度合いに差が出る場合もあり、より全員が主体的に関われる体制づくりが必要です。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価表や日々のやり取りから保護者の意向を丁寧に把握し、支援内容や運営改善に活かしています。	いただいたご意見の反映状況について、より分かりやすい周知が求められます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的な会議や情報共有の場を設け、現場の声を支援や業務改善に反映しています。	意見の収集・反映の仕組みをさらに明確化し、継続的な改善につなげていく必要があります。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	外部の視点を取り入れ、客観的な評価を基に事業所の質向上に努めています。	外部評価の実施機会や活用方法について、より体系的な取り組みが求められます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人内研修や外部研修の機会を設け、職員の専門性向上と支援力の底上げを図っています。	研修内容の更なる充実と参加機会の均等化に向けた工夫が必要です。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援内容を体系的に整理し、分かりやすい形で作成・公表することで、透明性の確保に努めています。	保護者への周知方法について、より理解しやすい工夫や情報発信の強化が求められます。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		個々の特性やニーズを丁寧に把握し、保護者の意向も踏まえた支援計画の作成に努めています。	アセスメントの精度向上と継続的な見直しにより、より個別性の高い支援が求められます。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		関係職員で情報共有を行い、多角的な視点から子どもの最善の利益を考慮した計画作成を行っています。	情報共有の機会や方法をさらに充実させ、より一層の共通理解の深化が必要です。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画を職員間で共有し、統一した支援が行えるよう連携体制の強化に努めています。	支援の実施状況の振り返りを強化し、計画との整合性をより高めていく必要があります。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の観察とツールを併用し、多面的に子どもの状況を把握する体制を整えています。	評価手法の標準化と職員間の理解統一を進め、より客観性の高い評価が求められます。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		本人・家族・移行・地域連携の視点を踏まえ、個々に応じた具体的な支援内容を計画に反映しています。	各支援領域の連携をさらに深め、より一体的で分かりやすい計画作成が求められます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員間で意見交換を行い、多様な視点を取り入れた活動プログラムの立案に努めています。	職員間の関わり方に差が出ないよう、より主体的な参加を促す工夫が必要です。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		子どもの興味や発達に応じて内容を見直し、変化のある活動提供に努めています。	活動内容のさらなる多様化と新しい取り組みの導入を継続的に進めていく必要があります。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個々の状況に応じて個別と集団活動を組み合わせ、社会性と個別支援の両立を図っています。	活動バランスの最適化を図り、より効果的な支援の組み立てが求められます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援前に打合せを実施し、内容や役割分担を明確にすることで統一した支援を行っています。	打合せ内容の共有方法を工夫し、より確実な情報伝達と連携強化が必要です。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援後に職員間で振り返りを行い、気付きや改善点を共有し、次の支援に活かしています。	振り返り内容の記録や活用をより充実させ、継続的な改善につなげる工夫が必要です。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の支援記録を丁寧にを行い、子どもの変化を把握しながら支援の質向上に努めています。	記録内容の統一や活用方法を工夫し、より効果的な検証・改善につなげる必要があります。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的なモニタリングにより支援の状況を確認し、必要に応じて計画の見直しを行っています。	見直しのタイミングや内容の共有をさらに充実させ、より適切な支援につなげる必要があります。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせで支援を行っているか。	○		ガイドラインの基本活動を意識し、複数の活動を組み合わせでバランスの取れた支援を行っています。	各活動の目的をより明確にし、効果的な組み合わせの工夫を継続していく必要があります。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		こどもが選択できる機会を設け、自ら考え行動する力を育てる支援を大切にしています。	個々の特性に応じた選択支援の工夫をさらに深め、主体性の向上につなげる必要があります。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童の状況を理解した職員が会議に参加し、適切な情報共有と支援連携に努めています。	参画機会の調整や情報共有の充実により、より一層の連携強化が求められます。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		医療・福祉・教育等の関係機関と連携し、子どもの状況に応じた支援体制を整えています。	連携の頻度や情報共有方法のさらなる充実により、支援の質向上が期待されます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校と密に連絡を取り、行事予定や下校時刻の確認など円滑な連携を図っています。	緊急時対応や情報共有のさらなる迅速化に向けた体制強化が必要です。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		関係機関と情報共有を行い、継続した支援が行えるよう相互理解に努めています。	情報連携の機会拡充と内容の充実により、よりスムーズな支援移行が求められます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		移行時にはこれまでの支援内容を整理し、関係機関へ適切に情報提供を行っています。	移行支援の仕組みをさらに明確化し、より円滑な引き継ぎ体制の構築が必要です。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		関係機関と連携し、助言や研修を通じて専門性向上と支援の質の充実に努めています。	連携機会のさらなる拡充と継続的な活用により、より専門的な支援体制の強化が必要です。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		地域資源を活用し、他児との関わりを意識した活動機会の確保に努めています。	交流機会の拡充と多様な活動の実施により、地域とのつながりを深める必要があります。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○	関係機関との情報共有を意識し、地域の動向把握と支援の質向上に努めています。	協議会等への参加機会を増やし、より積極的な関与と情報活用が求められます。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日々の連絡や面談を通じて状況共有を行い、保護者との共通理解の形成に努めています。	情報共有の方法や頻度を工夫し、より丁寧に分かりやすい伝達が求められます。
保護者への説明等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	必要に応じて情報提供を行い、家族の理解や対応力向上につながる支援を行っています。	研修機会やプログラムの充実を図り、より積極的な家族支援の展開が求められます。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		運営規程や支援内容、利用者負担について丁寧な説明を行い、理解しやすい対応に努めています。	説明方法の工夫や情報提供の充実により、より分かりやすい周知が求められます。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談等を通じて意向を丁寧に確認し、子どもの最善の利益を重視した支援計画作成に努めています。	意向確認の機会や方法をさらに充実させ、より反映度を高める必要があります。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		支援計画を分かりやすく説明し、保護者の理解と同意を得た上で支援を実施しています。	説明内容の更なる工夫により、より深い理解と安心感につなげる必要があります。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		日常的に相談しやすい環境を整え、面談や助言を通じて保護者支援に努めています。	相談機会のさらなる充実と継続的なフォロー体制の強化が求められます。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		○	保護者同士の交流機会の確保に向け、情報提供や関係づくりの支援に努めています。	交流機会の拡充やきょうだい支援の充実など、さらなる取り組みが必要です。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情対応体制を整備し、周知を行うとともに、迅速かつ丁寧な対応に努めています。	対応内容の共有や再発防止の仕組みを強化し、さらなる信頼向上が求められます。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		通信や各種媒体を活用し、活動内容や予定を分かりやすく発信しています。	発信頻度や内容の充実により、よりタイムリーで分かりやすい情報提供が必要です。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報保護の重要性を共有し、適切な管理と取り扱いの徹底に努めています。	職員間の理解統一と継続的な確認により、より一層の管理体制強化が必要です。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		個々の特性に応じた伝達方法を工夫し、安心して意思疎通が図れるよう配慮しています。	支援方法の更なる工夫と職員間の共有により、より適切な対応が求められます。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	地域との関わりを意識し、交流や情報発信を通じて開かれた事業運営に努めています。	地域交流の機会拡充と継続的な取り組みにより、さらなる連携強化が必要です。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを整備し、職員・保護者へ周知するとともに、想定訓練を実施しています。	訓練内容の充実と周知方法の工夫により、より実践的な対応力向上が求められます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定し、定期的な避難訓練等を通じて非常時への備えを行っています。	多様な災害想定に対応した訓練の充実と、継続的な見直しが必要です。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		服薬や既往歴等を事前に確認し、個々の状況に応じた安全な支援に努めています。	情報更新の徹底と職員間の共有強化により、さらなる安全管理が求められます。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		医師の指示に基づき対応を行い、アレルギー事故防止に努めています。	情報共有の徹底と確認体制の強化により、より確実な対応が必要です。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画に基づき研修や訓練を実施し、安心して過ごせる環境づくりに努めています。	計画の継続的な見直しと実践力向上に向けた取り組みの強化が求められます。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画に基づく取組を保護者へ丁寧に周知し、安心して利用できる体制づくりに努めています。	周知方法の工夫や理解促進により、より一層の連携強化が求められます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットを職員間で共有し、再発防止に向けた検討と改善に取り組んでいます。	記録の活用と分析を強化し、より効果的な再発防止策の構築が必要です。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		研修機会を確保し、虐待防止に関する理解を深めることで適切な支援の実践に努めています。	研修内容の充実と継続的な意識向上により、より確実な防止体制の強化が必要です。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		必要性を組織的に判断し、事前説明と同意のもと計画に明記し、適切な対応に努めています。	説明の丁寧さや記録の充実により、より透明性の高い運用が求められます。